

社会学び、思考力養う

実践校2年目。新聞から情報を集める習慣がつくよう、全国・地元の各紙に触れる機会を増やした。NIE

職員室前で新聞を読む生徒
＝奄美市名瀬の大島高校



大島高校（奄美市）

E担当の若山恵理教諭は「新聞は信頼性の高い情報を得られる上に、読み比べることで思考力を深められる」と意義を語る。

職員室前にコーナーを設け、新聞に親しむ環境づくりに取り組む。直近のニュースを絡めたテストを出題するため、テスト前は朝刊を開く生徒の姿が見られるようになった。新聞から社会問題を学ぶとともに、課題解決に向けて考え、表現する能力を養った。

小論文指導にも活用する。2年加藤藤月さんは「記事から知識や語彙力を身に付け、来年の受験に備えたい」と話した。

（中野あずさ）

かごしま NIE実践校

鹿児島県内で2024年度にNIE（教育に新聞を）実践校に指定された13校が、新聞を活用した授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業の様子を紹介する。

投稿を題材にしたワークシートに取り組む生徒ら
＝鹿児島市の鹿児島聾学校



鹿児島聾学校（鹿児島市）

高等部の国語の授業で、本紙「若い目」の投稿を題材にした読解プリントに取り組んでいる。分からない

投稿題材に読解伸ばす

言葉は辞書を引きながら読む。3年の山下諒翔さんは「記事を理解できると面白い」と意欲的だ。

聴覚以外にも障害のある生徒がおり、習熟度などにも差があるため、教員が一人一人に合わせて記事を選び教材にしている。小中高各学部では、興味のある記事を紹介する壁新聞作りに挑戦している。

実践校4年目。高等部の御鍵宗充教諭（43）は「聴覚障害があると語彙力が少なくなりがち。新聞を読むことで、表現力や読解力も伸びている」と評価する。今後、指定校でなくなっても新聞活用を続けていく考えだ。

（藤本わかな）

＝おわり＝